

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
課題解決型廃炉研究プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：α 汚染可視化ハンドフットクロスモニタの要素技術開発 代表研究者（研究機関名）：北川 裕一（北海道大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：明渡 純（産業技術総合研究所） 連携先研究責任者（研究機関名）：森下 祐樹（日本原子力研究開発機構） 研究期間及び研究費：令和4年度～令和6年度（3年計画） 105百万円</p>			
項目	要 約		
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所において廃炉業務に携わる作業者の汚染箇所・範囲、α線、β線放出核種の可視化、さらにα線放出核種の種別判定を可能とする装置の要素技術を開発し、将来的に内部被ばくの有無の判断にかかわる作業を大幅に軽減・迅速化し、作業者の安全・安心確保に貢献することを目的として、以下の項目を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) α 汚染可視化ハンドフットモニタの要素技術開発 2) α・β 汚染可視化クロスモニタの開発 		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い発光特性を有する希土類シンチレータを見出し、α β 分別同時計測の可能性を示したことは優れた成果であると評価できる。 ・ 汚染頻度の高い足裏と両手表面を対象としたα 汚染可視化ハンドフットモニタ及び着衣等の汚染検査に使用するα・β 汚染弁別可視化クロスモニタの要素技術をほぼ構築できたことは、1Fの今後の放射線被ばく管理の課題（入退域時の汚染検査の簡略化、時短化等）解決に大きく貢献する成果である。 ・ 今後、実用的なデバイス化やシステム化に進めることにより、1F現場への実適用が期待できる。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い発光特性を有する希土類シンチレータを見出し、α β 分別同時計測の可能性を示したことは優れた成果であると評価できる。 ・ 汚染頻度の高い足裏と両手表面を対象としたα 汚染可視化ハンドフットモニタ及び着衣等の汚染検査に使用するα・β 汚染弁別可視化クロスモニタの要素技術をほぼ構築できたことは、1Fの今後の放射線被ばく管理の課題（入退域時の汚染検査の簡略化、時短化等）解決に大きく貢献する成果である。 ・ 今後、実用的なデバイス化やシステム化に進めることにより、1F現場への実適用が期待できる。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い発光特性を有する希土類シンチレータを見出し、α β 分別同時計測の可能性を示したことは優れた成果であると評価できる。 ・ 汚染頻度の高い足裏と両手表面を対象としたα 汚染可視化ハンドフットモニタ及び着衣等の汚染検査に使用するα・β 汚染弁別可視化クロスモニタの要素技術をほぼ構築できたことは、1Fの今後の放射線被ばく管理の課題（入退域時の汚染検査の簡略化、時短化等）解決に大きく貢献する成果である。 ・ 今後、実用的なデバイス化やシステム化に進めることにより、1F現場への実適用が期待できる。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>		